

カルロ・ヴェントレ

テノール *Carlos Ventre*

ウルグアイ出身の注目のテノール、
カタールニヤ歌劇場来日公演で6月に来日

前回の来日公演が好評だったカタールニヤ歌劇場（イタリア・ベッリーニ大劇場）が、同じキャスト、同じ演出家での新演出《ノルマ》で再来日する。難役ポリオーネを見事に歌いこなす若手の注目株、カルロ・ヴェントレに話を聞いた。

——ポリオーネの難しさは？

ヴェントレ（以下、V） 前後半で、2つの声、2つの歌い方を要求される場所です。前半はベルカントテノールらしく聞き気味のポジションで、明るく高音を出すことを要求されるのに対し、後半はバリトンのようななかぶせた暗めの音色で、低音を元にポジションを作ります。僕のような、暗めの声色で高音を楽に出せるテノールは、ポリオーネに最適と言えると思います。

——あなたのポリオーネの聴かせどころは？

V まずアリアです。高音が含まれるヴァリエーションで歌い、テクニクをすべてお聴かせできます。あとは、大変ドラマティックなノルマとの二重唱です。

——将来の夢は？

V 定期的に日本に行くことです。ご、お世辞とは思えない真顔で言うので、理由を聞くと、私はウルグアイ生まれですが、日本人と共通点があるように感じられ、大好きです。日本の聴衆には大変温かく迎えていただきましたが、皆さん音楽をよく分かっているので、悪い演奏は受け入れられないインテンジエンスがあり、自分の芸術にとってよい試金石になるからです。

——あなたのキャリアの目標は？

V 私は自分のために歌っているのではなく、人に何かを与えることが好きなので、毎回よりよい公演を聴いていただこうと、切磋琢磨する日々を過ごしています。将来は、才能があるのにチャンスに恵まれない若手を、経済的、技術的にバックアップできるようにになりたいです。僕自身、イタリア人の父とスペイン人の母の、裕福とは言えない家庭に生まれ、もの心ついた時から歌ってはいても、デビューまでには大変苦労しましたから。

● まつすくな視線から満ちあふれるエネルギー——。背筋が伸びるようであり、彼の存在自体が大きな安らぎであるような、人間の大きさを感

取材文=中東生

